

趙旭東先生 講演会

中国で異文化の精神療法を根付かせることに成功させた 文化精神医学の貢献について

講演会は中国語で実施されます(日本語逐次通訳つき)

日時 : 2015年3月6日(金)
13:00~16:00

教室 : 創思館401・402教室

講師 : 趙旭東(ZHAO Xudong, ザオ シュドン)
中国・同済大学医学部教授 Dr.med.
(医学博士、ハイデルベルク大学)

講演内容

中国は急速に発展している。社会文化的環境、生活内容やスタイルは、大変変化してきており、すべての人たちが、自分のやり方や心理状態を修正しなければならない。社会文化的変化は、個人の内面の心理状態にも必然的に劇的な変化をもたらした。たくさんの人々はこの発展に歓喜し、個人の発達を経験しながらも、このような新しい「大変化」に高いつけを支払わなければならない。精神病理学に関連した逸脱行動は、重大な社会問題や危機の大きな原因として見られようになってきており、社会も高いつけを支払わなければならないようになってきている。

精神衛生に関するサービスの需要が大きくなるにつれ、主流であった生物学的精神医学では不十分になってきた。もっと人道的な対応策と技術が伴う新しい精神衛生(メンタルヘルス)サービスのシステムが急ぎ必要となってきた。1980年代から精神療法と心理カウンセリングは注目の的となった。最終的には、精神療法は「科学的な医療的治療」と、そして心理カウンセリングも「精神衛生(メンタルヘルス)を促進するための有効な手段」として中華人民共和国の精神衛生法で認められた。これは、中国における歴史的な進歩と言える。

著者は、1000年もの文化を持ち、一度は1950年から1978年まで心理学を「科学まがい(えせ科学)」と呼んだことのある中国社会で心理的サービスを根ざさせた30年もの努力を紹介する。特に中国のような途上国に文化的に相応しい精神療法を発達させた経験より以下のような顕著な問題を扱う必要があると明示する。

1. 普遍性 vs. 唯一性
2. 集団主義 vs 個人主義
3. 調和 vs 動揺
4. 局在化(ローカル化) vs 国際化(グローバル化)
5. 心理学の理解 vs 心理学の説明

参加者 : 応用研教員、院生、応用研に進学を検討している者、
応用研修了生

申込方法 : 3月5日までに担当: 北川へ メールにて申込をお願いいたします。

連絡先アドレス kitagw-a@st.ritsumeai.ac.jp

以上

問合せ : 独立研究科事務室 (応用人間科学研究科担当)
TEL : 075-465-8375 / FAX : 075-465-8364
E-mail : doku-ken@st.ritsumeai.ac.jp